

The Shape of Thought

# 思考のカタチ

財布に物を入れると、厚くなる。

この前提を疑うことから、Hitoe® L-zip Lの設計は始まりました。

このブックレットは、その設計思想を支える8本のエッセイを収録しています。

どこから読んでも構いません。

シンプルな構造に隠れた思考の奥深さ、それが伝われば幸いです。

01 内側から、再構築する。

Reconstructed from the inside - New technologies.

---

02 常識①「収納すると、厚くなる」

Convention 01 - Filling a wallet makes it thick - A truth no one questions.

---

03 常識②「大きく開くから使いやすい」

Convention 02 - Opening wide makes it easier to use - Does it really?

---

04 常識③「財布は小さいほどいい」

Convention 03 - Smaller is always better - Is it?

---

05 10mmに宿る思考。

Thinking within 10mm - The structural beauty of Hitoe® L-zip L.

---

06 小さい薄い長財布は、新次元へ。

The compact thin long wallet - A new dimension.

---

07 薄い財布を再定義する。

Redefining the thin wallet.

---

08 小さい長財布を再定義する。

Redefining the compact long wallet.

---

# 内側から、再構築する。

Reconstructed from the inside - New technologies.

薄さと使いやすさ、そして美しさ。それらは別々の価値ではなく、構造の中でひとつにつながっている。その関係性をもう一度、根本から見直した。

内部パーツのすべてを再設計、各ポケットに新しいアイデアを宿したことで、これまでにない一体感と調和が生まれた。

## SmartFit ※

トップカードポケット。枚数に応じて厚さを最適化する可変構造。カード1枚でも8枚でも無駄な余白を生まない。



SmartFit

## Floating U ※

コインポケット。上端固定・下部可動のU型設計。大きく開かなくても中が見え、硬貨を取り出しやすい。



Floating U

## Under U ※

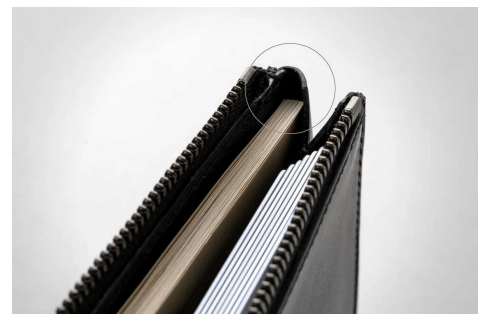
サイドカードポケット。コインポケットの下部に配置。最大8枚のカードを整った形で収納。



Under U

## WrapEdge

紙幣ポケット。紙幣を包み込む回り込み形状により、挿入性と収納力を高めた。



WrapEdge

※ 意匠登録済

常識に挑む①

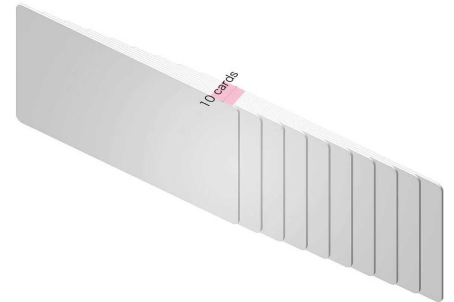
# 収納すると、 厚くなる。

Filling a wallet makes it thick - A truth no one questions.

財布にものを入れれば厚くなる — それは、誰もが疑わない「常識」。  
その常識に、Hitoe® L-zip Lは挑戦する。

## カードの重なりで財布は厚く

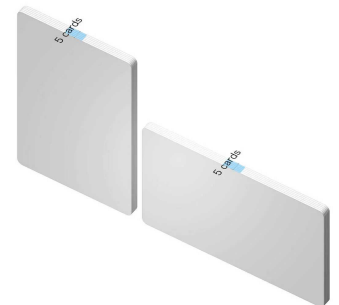
長財布は、二つ折り財布では収まりきらないカードを多く収納する分、どうしても厚くなりがちだ。一般的には、カードは横一列に並べて収納する構造が主流で、この形式ではすべてのカードが中央で重なる。さらに仕切やマチも重なり、それが厚さの原因になる。市場に出回る「小さい長財布」の多くは、外寸を一万円札サイズに近づける発想にとどまる。しかし外寸を縮めても、カードの重なりそのものは解消されない。



一般的な収納構造 - 中央で全カードが重なる

## 厚さ半減、「ダブルカードポケット」

SYRINXは、この構造的な課題に対して、2019年から「ダブルカードポケット」で挑んできた。カードを左右2箇所に分散させる独自レイアウト(登録意匠)により、カード同士の重なりを半減。さらに、硬貨とも重ならないHitoe® 構造を組み合わせることで、「収納しても薄いまま」という一見矛盾する構造を実現してきた。



ダブルカードポケット - 重なりを半減

問いを「長財布をどう小さくするか」から「長財布はどうあるべきか」へ。  
立て直したとき、解くべきは外寸ではなく収納物の重なりだと見えた。

## 収納しても、わずか10mm

革の重なりも最小限に抑え、カード8枚・紙幣10枚・硬貨10枚を収納してもわずか10mm。

カードを16枚に増やしても最厚部で13mm。底部は10mmを維持する。

多くの財布は最大まで収納すると膨れ上がる。Hitoe® L-zip Lは、たっぷり入れても薄いまま、美しいフォルムを保つ。



常識に挑む②

## 大きく開くから、 使いやすい。

Opening wide makes it easier to use - Does it really?

財布は大きく開いたほうが使いやすい — それもまた、疑われることのない常識だ。  
しかし本当だろうか。

### 「大きく開く」設計が招く矛盾

大きく開くための設計には、構造的な代償がある。

マチが大きいと革の重なりが増し、財布は厚くなる。硬貨は奥に残り、底に溜まってフォルムを崩す。毎回ファスナーを全開する手間も生じる。

「大きく開く」という設計思想は、「薄い財布」が目指す方向性と根本的に矛盾している。



薄さに特化したミニマルな内部構造

### 大きく開かないから、快適に

Hitoe® L-zip Lはマチの重なりがない。大きく開かなくても全てをスムーズに出し入れでき、余分なパーツで厚くする必要がない。

両端にスライダーを配置したダブルファスナーにより、必要な側だけを開けば足りる。毎回全開する必要がない。

「大きく開かなくても使えるか」という問いから導かれた答えだ。

薄さを追求すると、やがて快適さに行き着く。  
薄いからこそ、快適になる。

### 硬貨を溜めず、薄さをキープ

視認性に優れ取り出しやすいコインポケットの設計が、硬貨を溜め込まない使い方を自然にサポートする。薄さは、形だけでは保てない。日々の使いやすさによって維持される。



Floating U : 深さのゆとりを確保

常識に挑む③

## 財布は、 小さいほどいい。

Smaller is always better - Is it?

極小サイズの薄い長財布が数多く登場している。外寸が小さければ、確かに魅力的に見える。しかし、「最小」と「最適」は違う。

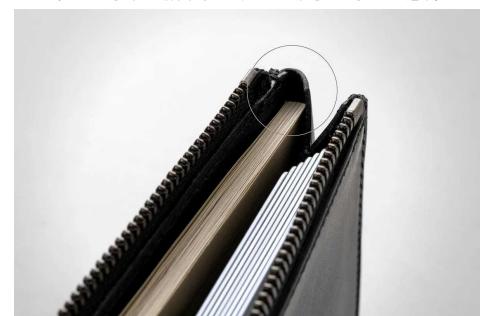
### 小さすぎる長財布が抱えるストレス

サイズを削りすぎると、紙幣は噛みやすくなる。日々の小さなストレスが積み重なる。使いやすさは寸法の「最適値」で決まる。

外寸は縮め、内部は広げる。 — この矛盾の同時解決が、設計の真髄だ。

### 外寸は縮め、内部は広げる

新Hitoe® L-zip Lは169mmのコンパクトサイズながら、内部の使いやすさが向上している。高さをカード基準ではなくパスポート基準で設計することで、3mm縮めながらも底部にゆとりが生まれた。WrapEdge構造により、紙幣ポケット端部を革で巻き込む形状で自然な収納が実現した。



### わずか数mmの余白が広げる可能性

わずかな余白により、パスポート、銀行通帳、L版写真、海外紙幣、AirTagなどの収納が可能になる。たった3mmが、日々の使い心地を変える。

「最小」ではなく「最適」を選ぶ。削れる寸法があっても削らない。薄さと汎用性が両立する「最適」を選ぶ、それがSYRINXの答えだ。



# 10mmに 宿る思考。

Thinking within 10mm - The structural beauty of Hitoe® L-zip L.

SYRINXは薄さを目的ではなく、結果として捉える。構造の合理性、使いやすさ、美しさの交点から生まれる薄さ。10mmという数値は、薄く見せるための設計ではなく、構造上もっとも合理的で美しい均衡を保つ必然の値だ。

## 「薄い財布」を定義し直す

単なる薄さではなく、実用性を兼ね備えた薄さ。

カード6枚以下ならHitoe® Foldが優れており、Hitoe® L-zip Lはカード7枚以上を基準に構造から寸法を導出している。それぞれの製品が、それぞれの問いに誠実に答えた結果だ。

## 構造から導かれる10mmの論理

Hitoe® L-zip Lは、カードポケットが2箇所ある「ダブルカードポケット」構造のため、カード7枚収納時なら、片側最大4枚。そのときの厚みを積み上げると、

- ・カード4枚： $0.76\text{mm} \times 4 = 3.04\text{mm}$
  - ・革の重なり（外装＋内装）合計：5.8mm
  - ・紙幣・レシート10枚： $0.10\text{mm} \times 10 = 1.00\text{mm}$
- 合計： $3.04 + 5.8 + 1.0 = 9.84\text{mm} \approx 10\text{mm}$ 。

つまり、カード7～8枚を収納したときの最大厚みは約10mm。この寸法は、収納量が変わっても均衡を保つ。

最大16枚のカードを収納すると紙幣は底に届かず、カードが片側8枚で約6mm、外装をあわせ約10mm。つまり、10mmの底部を維持したまま最大で16枚のカードが収まる。



Hitoe® L-zip L

一つひとつの寸法に、感覚ではなく思考が宿っている。  
10mmは、その思考が結晶した数値だ。

## 10mmという均衡点

10mmは構造的必然と造形的美が交わる均衡点だ。これ以上薄くすれば収納力が失われ、これ以上厚くすれば存在意義が薄れる。

この均衡点を見出す行為こそが、思考のカタチの本質だ。

# 小さい薄い長財布は、 新次元へ。

The compact thin long wallet - A new dimension.

Hitoe® L-zip Lは、日常では極めて薄い長財布として活躍する。  
コンパクトな長財布として、どのポケットにもすっと収まる。ただ薄いだけでなく、高い汎用性を備えている。

## 快適な日常と高い汎用性

カード16枚、パスポート、銀行通帳、各種チケット、AirTagにまで対応する柔軟性。

薄さと汎用性は、かつてトレードオフだった。構造がそれを変えた。



Slip Pocketにパスポートも収納可能  
※ パスポート・通帳収納時はカード10枚まで (5+5)

## 薄さと美しさを守る「適度なバランス」

パスポート収納時はカード容量が10枚程度に制限される。この「適度なバランス」が薄さを守り、美しい佇まいを保つ理由だ。必要なものだけを薄く整えて持ち歩くことで、長財布としての使いやすさとオーガナイザーとしての柔軟性を両立させる。

薄い長財布は、スマート・オーガナイザーという新しい役割を担う。

## 日常と旅で発揮されるスマート・オーガナイズ

日常生活での携帯性。カバン内のサブ財布。出張時の領収書整理。手ぶら外出時の鍵収納。海外旅行のトラベルウォレット。AirTagによる紛失対策。シーンを選ばず整ったまま使える汎用性 — それが「スマート・オーガナイザー」としての新たな顔だ。思考から生まれた構造が、財布の新しい可能性を広げる。



カードを16枚入れても美しいシルエットを保つ

# 薄い財布を 再定義する。

Redefining the thin wallet.

本当に大切なのは、薄いまま寄り添えること。  
見た目が薄いだけでは、日々の使用の中でその薄さを保つことはできない。

## これまでの「薄い財布」

従来の薄い財布には2つのアプローチがあった。フラグメントケースのように何も入っていない状態で薄い財布は、見た目はスマートだが収納力は限られており、無理に収納すれば形は崩れる。効率的に収納できる嵩張らない財布も、中身が増えていけばやがて収納は限界に達し、財布は少しずつ厚みを増していく。

## 財布が厚くなる本当の原因

財布の中身はカード、紙幣、レシート、そして硬貨。もっとも影響しやすいのが硬貨だ。窮屈だったり深すぎたりするポケットは、硬貨を取り出しにくくする。その結果、硬貨は使われにくくなり、支払いのたびに財布に滞留して厚みが増す — という悪循環が生じる。

使うたびに収納物が滞留しにくい構造があってはじめて、薄い財布は薄いままでいられる。

## 硬貨が貯まりにくい構造の3条件

「見やすい」「整いやすい」「取り出しやすい」この3条件が揃ってはじめて、硬貨は滞留せず、薄いままで使い続けることができる。Hitoe® L-zip LのFloating Uは、この3条件を一つの構造で実現している。



Floating U : 深さのゆとりを確保

## 体験まで含めて、「薄い財布」と呼ぶ

SYRINXは思考をカタチにするブランドだ。ただ薄いフォルムの財布をつくるのではなく、薄いまま日常に寄り添える財布をデザインする。その体験まで含めて、「薄い財布」と呼ぶ。

# 小さい長財布を 再定義する。

Redefining the compact long wallet.

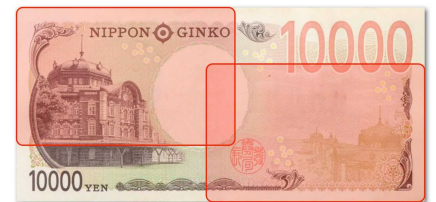
長財布を小さくする。その発想は、一見すると合理的に見える。  
しかし、その前提には落とし穴がある。

## 一万円サイズへ、という収束

キャッシュレスが進んでも、長財布を選ぶ理由は消えない。お札を折らずに収納できること。一覧性の高さ。取り出す所作の美しさ。その長財布を小さくする答えとして選ばれたのが、「一万円札のサイズに近づける」という発想だ。一見、合理的に見える。しかしこの発想には、見過ごされてきた問題がある。

## 一万円サイズの中で、カードは並べられない

一万円札のサイズは160×76mm。ここにカードを2枚並べようとすると、縦に置いて横に置いて重ならず並べることができない。どこに置いて、必ず中央に「すべてのカードが重なる帯」が生まれる。これは工夫で回避できる問題ではない。寸法の必然だ。



一万円札サイズの中でカードをどれだけ分散させても中央の濃い赤い帯は、全カードが必ず覆う領域となる

「小さい長財布」は、厚くなることを根本的に避けられない。  
—それは構造の問題ではなく、問いの立て方の問題だ。

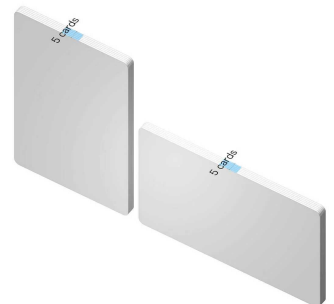
## 問いを立て直す

「長財布をどう小さくするか」という問いでは、この問題は解けない。「長財布はどうあるべきか」問いを立て直すと、見えてくるものが変わる。お札を折らずに収納できること。収納物を一望できること。十分な収納力を持つこと。これが長財布の条件だ。

## 構造が、形を決める

重なりは、構造でしか解けない。

2019年に発表したダブルカードポケットは、カードをL字型に2箇所へ分散させることで、一万円札の幅のままカード同士の重なりを半減させる。形は、問いから生まれる。



ダブルカードポケット - 重なりを半減

世界に共鳴した思考。

世界三大デザイン賞をはじめ、累計31冠



形は、問いから生まれる。

思考のカタチ。